

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	親子通園クラスの設置
-----	------------

【事業的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健・医療・福祉・教育の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	親子通園クラスの計画的な設置				
これまでの進捗状況・今後の予定		1施設 (八幡西区黒崎保育所)	小倉北区東篠崎保育所で実施予定	親子通園クラスの計画的な設置		実施箇所数 7箇所	
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	親子通園クラスの設置		計画	1 施設	2 施設	年度	平成26年度
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を受け入れ、遊びや相談等を通して、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。		実績	1 施設		内容	7箇所
			達成度	100 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
コスト			事業費	1,290 千円	3,158 千円		
			うち一般財源	1,030 千円	1,238 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 八幡西区黒崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談会を行いました。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した関わりの中で、子育ての楽しさや子どもの成長の喜びを伝えるなどの支援を行いました。12組(延べ65組)の親子が利用しました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	現在通園中の世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また次年度の進路が決定している世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	利用料として、一世帯あたり月に4,000円を徴収しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	現在の社会状況において、支援の必要な子どもと保護者への対応を考えた子育て支援としてたいへん重要であると考えられます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	直営保育所の施設と人材を活かした子育て支援であり、全国的にも例のない事業です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市全域へのサービス実施のためにも、平成23年7月東部地区で事業を開始していきます。発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、保育所での親子遊びや行事参加などの体験、相談を通じて、保育所や幼稚園等への移行支援を行います。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	東部地区の東篠崎保育所で、親子通園クラス事業を開始します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	地域子育て支援センター事業
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	育児相談や情報提供、親同士の交流などの場を設け、子育て中の親の子育て支援を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	地域子育て支援センターを実施する保育所の施設数の現状維持(8箇所)				
	これまでの進捗状況・今後の予定	8箇所	地域子育て支援センターを実施する保育所の施設数8箇所の現状維持			平成26年度 現状維持	
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	実施箇所数		計画	8 箇所	8 箇所	年度	平成26年度
	実施箇所数について、現状の実施体制の維持に努めます。		実績	8 箇所		内容	現状維持 (8箇所)
			達成度	100 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
【コスト】	事業費	65,506 千円	69,369 千円				
	うち一般財源	35,118 千円	37,605 千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	地域の子育て家庭などへの支援のため、保育所内のフリースペース活動では担当保育士と親子遊びをしたり、親同士の交流の場を設けたり、育児相談を受けたりしました。また在宅家庭の電話相談や保育所来所相談にも応じ、子育てのアドバイスや健康情報を提供しました。重点的に支援が必要な家庭には、保健師や子ども総合センターなどの関係機関と連携して、課題解決を図りました。各地域の市民センターにおいても、保育所から出向いて、育児講座を開催したり、育児サークルの立ち上げや交流ができるようにサポートしました。
--------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

【評価】	【有効性】 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	育児相談や育児アドバイス・遊びの紹介などの子育て情報提供、子育て親子が交流する場の提供など、地域の子育て支援の中核となっています。
	【経済性・効率性】 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	限られた補助金額の中で、配置保育士2名分の給与を支出すると同時に、工夫して各園センターでパンフレット・手引き等を作成するほか、離乳食講座、手作り教室など各種交流行事を開催しており、効率性は高い。
	【適時性】 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	フリースペースの利用者は年間に延べ28,000人を越えており、地域の子育て世帯に対する支援の場がなくなることで、支援サービスが低下します。
	【市の関与の必要性】 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	地域の子育て支援の中核的施設であり、市が総合的に実施する必要があります。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	子育て世代のニーズに対応するため、現状の箇所数を維持し、関係機関とネットワークを構築して育児相談等の子育て家庭への支援や地域の育児サークル等への支援を実施します。また各施設間の連携や情報交換を行い、支援センターの機能強化を図ります。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	現状の実施体制を維持します。各施設が意見交換を行う連絡会を開催します。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	子育て支援員の養成・配置(保育所)
-----	-------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市社会福祉研修所の研修の充実を図り、保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成します。「子育て支援員」は、各区役所や市民センター等と連携しながら、地域に根差す保育所の子育て家庭支援の中心的な役割を担います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	全所1名ずつ子育て支援員の養成	子育て支援員の増員			
実施状況	これまでの進捗状況・今後の予定	子育て支援員の増員数 40名	子育て支援員の増員				
		子育て支援員の配置保育所数 157施設(全保育所)					
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標
	子育て支援員の増員	計画	40 名		年度		
子育て支援員の養成を継続します。	実績	40 名		内容		—	
	達成度	100 %	%				
子育て支援員の配置保育所数	計画	157 箇所	158 箇所	年度	平成26年度		
	実績	157 箇所		内容		現状維持(全保育所)	
保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成し、保育所に配置し、育児に悩む保護者を支援できるよう、活動指標としてあげました。	達成度	100 %	%				
	コスト	事業費		677 千円	553 千円		
		うち一般財源		677 千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 子育て支援指導者の育成を計画的に行い、「子育て支援員養成講座」を6日間実施しました。子育て支援の推進及び保育の質の向上を図ることができました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」は子育ての悩みや不安をもつ保護者に適切なアドバイスや援助が期待でき、有効性が高いと思います。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	社会福祉研修所が主催した研修を活用して受講することで低コストに抑えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	保育士の質の向上は、保育所の質の向上であり、実施主体として市が適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも、子育て支援の役割を担う保育士養成のため、研修を継続実施します。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	引き続き今年度も子育て支援の役割を担う保育士養成のため、研修を実施します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	身近な施設における相談の実施
-----	----------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所や幼稚園、学校、市民センター、小児科医などの身近な施設において、通常の業務や活動の中でそれぞれの特性を活かした子育て相談や情報の提供を行っている。このうち、保育所においては、すべての施設で地域の子育て家庭を対象とした育児相談をはじめ、情報の提供を行います。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	子育て相談や情報の提供を全保育所で実施					
	これまでの進捗状況・今後の予定	全保育所157施設で実施	子育て相談や情報の提供を全保育所で実施					
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	全保育所で実施				計画	157 箇所	158 箇所	年度
	全保育所で育児相談や子育て情報の提供を実施				実績	157 箇所		内容
					達成度	100 %	%	内容
					計画			年度
					実績			内容
				達成度	%	%	内容	
コスト					事業費	千円	千円	
					うち一般財源	千円	千円	

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	保育所における地域活動の一環として位置づけをしています。保育所が持つ専門的知識やノウハウを生かして相談を受けたり、ふれあい遊びを提供して親子の愛着関係がスムーズに築けるように支援をしました。保育所での子育て広場や地域のセンター行事に参加を呼びかけ、子育て相談や情報の提供を行い保護者が不安を解消し子育てが楽しいものとなるようにこの取り組みを続けます。
------	-------------------------------------	---

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4 : 高い 3 : やや高い 2 : やや低い 1 : 低い	4	各保育所で開催している子育て広場の参加者や電話相談は増加傾向にあり、子育てに不安を感じている在宅の母親にとって、身近な相談場所として、大きな役割を果たしています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	保育所で実施している地域活動事業の一環として実施している相談業務であり、特別なコストがかかりません。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	家庭の育児力が年々、弱体化し子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加傾向にある現在「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	地域住民の理解を深め、開かれた保育所づくりを推進しています。市の大切な社会資源として責任をもって子育て支援をしているところです。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	子育ての悩みや不安を感じる人の割合【就学前】は、平成22年度35.4%です。子育てに不安を抱え、誰にも相談することなく気持ちが不安定になる母親も見受けられます。今後も身近な施設である保育所として、人材と機能を活かし、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりの一翼を担います。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	保育所が持つ専門的知識や、ノウハウを活かして、関係機関と連携をとりながら、地域に向けて子育て広場の開催や子育て相談、情報の提供を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	子育て支援総合コーディネーターの配置
-----	--------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子育て支援サロン“びあちえーれ”に子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、面接、電話、インターネット(メール)による子育てに関する相談の対応を行うとともに利用者に必要な関係機関との連絡、調整等の支援を行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	コーディネーターを配置し、育児相談への対応、関係機関との連絡、調整等を行い子育て支援の充実を図る					→	
		これまでの進捗状況、今後の予定	コーディネーター3名配置	コーディネーターを配置し、育児相談への対応、関係機関との連絡、調整等を行い子育て支援の充実を図る					
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標				
	コーディネーターの現状維持	計画	3名	3名	年度				
	子育て支援サロン“びあちえーれ”のコーディネーターの数の現状維持に努め、子育て相談や関係機関との連絡、調整等にきめ細かく対応します。	実績	3名		内容	-			
		達成度	100%	%	内容				
		計画			年度				
		実績			内容				
	達成度	%	%	内容					
コスト	事業費	15,061千円	15,115千円						
	うち一般財源	12,611千円	12,665千円						

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 813件の子育て電話相談に応じるとともに、コーディネーターは育児・心の問題・しつけ・教育の仕方など1630件の面接相談を行いました。Eメールによる相談も必ず面接相談に誘い、きめ細やかな相談体制を取りました。相談は利用者に必要な関係機関との連絡、調整などを行い支援を図りました。また保険・食育・遊びをテーマとして育児講座を年10回開催し、766人が参加しました。育児に関する図書や児童の年齢にあった絵本の貸し出しも行いました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	813件の子育て電話相談や1630件の面接相談への対応を行うとともに、利用者に必要な関係機関との連絡、調整を専門的に行う子育て支援のコーディネーター事業であり、有効性は高いと思われます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	限られた予算の中で、事業を運営し、さらに施設で行われる育児講座の開催や貸し出し図書の購入、リーフレットを作成して事業の周知等を行うなど効率的に事業の周知を行っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子育てに関する相談等の支援サービスは、子育ての悩みや不安のある保護者にとって必要であり、事業の必要性は年々大きくなっています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	事業実施に多くの関係機関・専門機関との連携、調整が必要であり、実施主体は市が適当です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	面接相談は前年度より216件増え、1025件の保護者の相談中57件の父親の相談もありました。重く、多岐にわたる内容の相談に、専門的知識のあるコーディネーターが真摯に対応しています。育事講座は託児もあり、子育ての悩みや不安のある保護者が参加しやすくなっています。子育てに不安を感じる人の割合は平成22年度35.4パーセントあります。拡充数効果の大きい事業です。

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	今後も継続して、子育てに関する相談への対応や各関係機関との連携、コーディネーター業務を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	--	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	一時保育事業
-----	--------

【目的の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施箇所数を増やし、また保育所での保育が可能な障害のある子どもの受け入れを促進します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する手段】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	一時保育事業を実施する保育所数の増						平成26年度 64箇所
	これまでの進捗状況・今後の予定	一時保育事業実施保育所数:54箇所	一時保育事業実施保育所数:58箇所	一時保育事業を実施する保育所数の増		平成26年度 64箇所			
【実施状況】	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
	一時保育事業を実施する保育所					計画	54 箇所	58 箇所	年度 平成26年度
	保育所の新設や直営保育所の民営化に伴う一時保育事業の実施および既存保育所での新規実施により実施保育所数の増を図ります。					実績	54 箇所		内容 64箇所
						達成度	100 %	%	内容
						計画			年度
						実績			内容
					達成度	%	%	内容	
【コスト】						事業費	48,634 千円	48,381 千円	
						うち一般財源	22,853 千円	12,729 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 新規4施設で一時保育事業を実施するための施設整備を実施しました。

【事業の再検証】				
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	延べ利用人数は2549人・日であり、多様化する就労形態への対応、育児リフレッシュに高い効果があります。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助金額の中で人員配置、事業の実施を行っており、コストを削減する余地は少ないと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	パート就労等の利用ができなくなります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	事業の性質上保育所機能の一部として実施する必要があります。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	一時保育には専用の保育スペースが必要であり、今後も新設の保育所や直営保育所の民営化に合わせて、平成26年度までに64箇所において一時保育施設の拡充をします。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	23年度より新規4箇所一時保育事業の実施を予定しています。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所における地域活動事業
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所における世代間交流事業や、異年齢児交流事業など幅広い活動を通して、子どもたちの社会性を培います。また、保育所が持つ専門的知識やノウハウを活かし、子育て相談や育児講座の開催および子育て情報の提供を行うなど、地域の子育ての核として子育て家庭への支援を拡充します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	すべての保育所で地域活動事業の実施				
	これまでの進捗状況・今後の予定	全保育所157施設で実施	すべての保育所で地域活動事業の実施				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度		平成23年度		目標
	地域活動事業を実施する保育所数		計画	157 箇所	158 箇所	年度	
	全保育所で世代間交流や子育て相談、育児講座などを実施して子育て支援を行う。		実績	157 箇所		内容	現状維持 (すべての保育所)
			達成度	100 %	%	内容	
			計画			年度	
			実績			内容	
		達成度	%	%	内容		
【コスト】	事業費		33,263 千円	36,738 千円			
	うち一般財源		13,338 千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	各保育所で地域の年長者と昔遊びや、縁日ごっこなどの世代間交流や、校区小学校と連携を持つ異年齢交流を行いました。また、保護者対象の子育て相談や育児講座はもとより、在宅親子への支援として、子育て広場の開催や電話相談などを実施しました。
-------------------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】			
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	未就園児親子が身近な保育所で、子育てのアドバイスを受けてたり、同年齢の保育園児と遊んだりすることで、育児の悩みや不安が緩和され保護者に喜ばれています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	今ある保育所の機能を生かして事業を行うので低いコストで行えます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	地域住民の理解を深め、開かれた保育所づくりを推進しています。市の大切な社会資源として責任を持って子育て支援をしています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも保育所の機能を生かして地域の子育て支援を充実させ、開かれた保育所づくりを進めます。

【次年度計画】	目的実現のために23年度に実施すること	子どもたちの社会性を培うため、保育所においては世代間交流事業や異年齢児交流事業など、幅広い活動を実施します。また、保育所が持つ専門的知識やノウハウを活かして、子育て相談や育児講座、情報の提供を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------	---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所・幼稚園情報の積極的な提供
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民が保育所を選択する際の一助となるよう、市ホームページの充実を図ります。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	ホームページによる各保育所の入所状況の情報提供				
	これまでの進捗状況・今後の予定	ホームページの更新数 12回	ホームページによる各保育所の入所状況の情報提供				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標
	ホームページの更新数			計画	12回	12回	年度
	市内の各保育所の受入状況をホームページで公開し、毎月更新しています。			実績	12回		内容
				達成度	100%	%	内容
				計画			年度
				実績			内容
			達成度	#DIV/0! %	#DIV/0! %		
【コスト】			事業費		千円	千円	
			うち一般財源		千円	千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画どおりに毎月更新して情報提供をしました。

【事業の再検証】			
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	区役所等へ問い合わせることなく、各保育所の入所状況を把握できるため、情報提供の手段として有効性が高いと思われます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	ホームページでの情報提供は効果が高く、低コストであり、これ以上のコスト削減は困難です。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保育所のニーズが高まる中、入所希望の保護者の情報収集に影響が大きいと思われます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市の事業の情報提供であるため、市が主体的に行うべきです。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ウ	今後とも保育所の受け入れ状況をホームページでお知らせして、市民に情報提供をしていきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	今後も継続的に情報提供を実施していきます。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局/子ども家庭政策課
連絡先	582-2550

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所・幼稚園情報の積極的な提供
-----	------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民に愛され親しまれる保育所・幼稚園となるため、また、市民が保育所・幼稚園を選択する際の一助となるよう、ホームページの充実や、ガイドブックの作成などにより、積極的に、保育所・幼稚園の情報提供に取り組みます。さらに、タイムリーな情報提供を充実させるため、保育所・幼稚園に通う子どもや保護者向けの情報を、保育所・幼稚園を通して提供します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	保育所・幼稚園に通う子どもや保護者向けの情報を、保育所・幼稚園を通して提供					→	
		これまでの進捗状況、今後の予定	H22.7 「こそだて情報」を全保育所・幼稚園在籍児童に配布 保育所・幼稚園に通う子どもや保護者向けの情報を、保育所・幼稚園を通して提供						
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標		
	情報提供を行った保育所・幼稚園の箇所数		計画		262 箇所	262 箇所	年度 平成26年度		
	保育所・幼稚園を通じた情報提供を行うことが、タイムリーな情報提供につながるため、活動指標として掲げました。市内のすべての認可保育所(園)、幼稚園を通じた情報提供を行います。		実績		262 箇所		内容 市内のすべての認可保育所(園)、幼稚園		
			達成度		100 %	%	年度		
			計画				内容		
			実績				年度		
		達成度		%	%	内容			
コスト			事業費		千円	千円	/		
			うち一般財源		千円	千円			

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	子育て中の保護者が子どもの成長や年齢に応じた情報をタイムリーにかつ手軽に入手できるよう、平成22年7月に情報誌「こそだて情報」の改修を行うとともに、発行部数を大幅に増やし(就学前児童数に応じた部数=5万部)、全保育所・幼稚園に通う児童に保育所・幼稚園を通して配布しました。
------	-------------------------------------	--

### 【事業の再検証】

評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	保育所・幼稚園に通う全児童に「こそだて情報」を配布することにより、保護者に子どもの成長や年齢に応じた情報をタイムリーに提供することができています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	情報誌「こそだて情報」作成・配布にあたっては競争入札を行い、経済的・効率的な作成・配布に努めています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子育ての悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、保育所・幼稚園を通じた情報提供は、「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できる点で高い効果があります。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	市の子育てに関する施策や施設に関する情報の取りまとめ等については、市のみが可能であり、実施主体としては市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		今後とも、子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるよう、保育所・幼稚園を通じた情報提供の継続実施に努めます。

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	23年度においても、子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるよう、保育所・幼稚園を通じた情報提供の継続実施に努めます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	教育委員会・企画課
連絡先	582-2357

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所・幼稚園情報の積極的な提供
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民に愛され親しまれる保育所・幼稚園となるため、また、市民が保育所・幼稚園を選択する際の一助となるよう、ホームページの充実や、子育て情報誌の作成などにより、積極的に、保育所・幼稚園の情報提供に取り組むものです。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	進捗状況	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
			当初の予定	積極的な情報提供の実施						新たな計画に基づき実施する予定
			これまでの進捗状況・今後の予定	積極的な情報提供の実施						新たな計画に基づき実施する予定
実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標		
	ホームページの開設			計画		80%	90%	年度	平成25年度	
	保護者が簡単に情報を取得しやすくするためです。			実績		83%	%	内容	全園	
	子育て情報誌の作成			計画		-	-	年度		
	「くらしの便利情報」、「北九州市こそだて情報」により幅広く情報提供を行い、保護者が選択する一助にするためです。			実績		掲載	-	内容		
				達成度		-	%			
コスト				事業費		千円	千円			
				うち一般財源		千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 ・各園のホームページを全園中84%が開設しており、ネット社会の昨今、市民が保育所・幼稚園を選択する際に大変有効な手段となっています。 ・「くらしの便利情報」、「北九州市こそだて情報」により幅広く情報提供を行い、保護者が選択する一助となっています。 ・公立幼稚園では、年3回「はぐくみ」を発行しており、よりタイムリーな情報発信をしています。

【事業の再検証】			
評価	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	・市民にとって、お子さんの保育所・幼稚園の選択の問い合わせは特に多く、ホームページ、情報誌を紹介することによって、大変有効な手段となっています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	・「くらしの便利情報」、「北九州市こそだて情報」の中に、いろいろな制度を凝縮して発行しているため、低コストで市民にたくさんの情報を提供できます。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	・保育所・幼稚園の選択に関する情報提供は市民ニーズが高く、園情報や補助制度については積極的な情報提供が必要です。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	・積極的な情報提供の中で、「くらしの便利情報」、「北九州市こそだて情報」については、園情報だけでなくいろいろな制度の情報発信ができるため必要です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。  ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ウ	今後も積極的な情報発信を継続するとともに、タイムリーな情報提供を行っていく必要があります。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	各私立幼稚園に対し、ホームページの開設を、呼びかけていきます。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	施設・園庭の地域への開放
-----	--------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域住民の理解を深め、開かれた保育所づくりを推進するため、未就園児と保護者に施設や園庭の開放を促進するとともに、行事へ地域住民の参加を促すなど、安全管理の下で開放的な雰囲気づくりに取り組みます。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	全保育所での施設・園庭の開放				
	これまでの進捗状況・今後の予定	実施施設数 157施設(全保育所)	全保育所での施設・園庭の開放				
【実施状況】	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度		平成23年度		目標
	施設・園庭の地域への開放実施施設数		計画	157 施設	158 施設	年度	全保育所 (現状維持)
	地域活動や施設の開放を通して、未就園児と保護者の来所が増え個別の育児相談の実施など、開かれた保育所作りを推進します。		実績	157 施設		内容	
			達成度	100 %	%	年度	
			計画			内容	
			実績			内容	
		達成度	%	%			
【コスト】			事業費	千円	千円		
			うち一般財源	千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 地域活動を通して、地域の年長者や在宅親子との交流を行いました。。不審者対策を十分に考慮の上、開かれた保育所づくりを推進しました。

【事業の再検証】			
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	地域住民や未就園児親子を行事や育児講座などに招待することで、保育所への理解が深まり、また専門性を生かした子育て支援は子育てに悩む保護者の方に喜ばれています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	保育所の機能を生かして、保育所への理解を得て、開かれた保育所づくりをするので、特別なコストはかかりません。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	地域のつながりが希薄している今、行事等を通して地域住民や未就園児親子が保育所の子どもたちと触れ合い楽しく過ごす中で、地域社会全体で子育てを支えるという意識が芽生え、効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	地域住民の理解を求め、開かれた保育所作りを推進しています。市の大切な社会資源として責任をもって地域の子育て支援のあり方をリードしています。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも保育所の機能を生かして、地域の子育て支援を充実させ、開かれた保育所づくりを進めます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	この事業は、安全管理の下、継続します。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局子育て支援課
連絡先	582-2410

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	親子で進める食育教室
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	乳幼児期からの正しい食事の仕方や望ましい食習慣の定着のために、幼稚園や保育所等において、入所児童の保護者を対象に乳幼児期の食育について、栄養士の講話や調理実演などを行います。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定		幼稚園、保育所等との連携により、より効果的な教室の開催の推進			
【実施状況】	これまでの進捗状況・今後の予定	「親子ですすめる食育教室」の開催回数(40回)	幼稚園、保育所等との連携により、より効果的な教室の開催の推進				
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標	
【実施状況】	「親子ですすめる食育教室」の開催回数	計画	40回	40回	年度	毎年度	
	幼稚園、保育所等において教室を開催することにより、より多くの市民に啓発できるため開催回数を活動指標としました。	実績	40回		内容	40回	
		達成度	100%	%	内容		
	【コスト】	事業費	797千円	1,407千円			
うち一般財源		602千円	1,178千円				

### 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	40回実施しており、より多くの市民に啓発できています。
--------	-------------------------------------	-----------------------------

### 【事業の再検証】

【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	年長児のほとんどが幼稚園、または保育園に通っており、保護者にも最も参加しやすい場所での教室の開催は食育の推進を啓発するのに有効です。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	4	従事者にボランティアを加えており、コストの面では抑えられています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4	食に関する悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、食育の推進に向け高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	3	3	食育に関する取り組みは施設差が大きく、市がかかわることにより最低レベルを引き上げられます。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも、市内幼稚園・保育所等において教室を実施し、正しい食事の仕方や望ましい食習慣の定着のために食育を推進します。	

### 【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	幼稚園・保育所等との連携を深め、教室を実施し、食育を推進していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-------------------------------------	----------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所を通じた地域への食育推進事業
-----	-------------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所において、食事に関する不安を解消するために、入所児童の保護者に加え、地域の子育て家庭を対象として食育に関する相談や講演会等を充実します。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	食育を通じた地域の子育て家庭への支援に向けた積極的な取り組みの推進・啓発				
これまでの進捗状況・今後の予定		実施保育所(園)の割合 62%	食育を通じた地域の子育て家庭への支援に向けた積極的な取り組みの推進・啓発				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標		
	地域の子育て家庭に対し食に関する支援を実施している保育所(園)の割合	計画	62 %	64 %	年度	平成26年度	
	支援を実施している保育所(園)の割合の増加が、支援の充実と比例していると考えられるため、活動指標として掲げました。	実績	62 %	%	内容	70%	
		達成度	100 %	%			
		計画			年度		
		実績			内容		
	達成度	%	%				
コスト	事業費	千円	千円				
	うち一般財源	千円	千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 実施保育所(園)の取り組みの事例発表や各保育所(園)における実施の有無のアンケート結果を周知することにより、少しずつではありますが、今まで実施していなかった施設が新たに実施しました。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	講演会や食に関する情報提供は、入所児童の保護者ととも、地域の子育て家庭を対象とするので、より効果が高く、地域の保護者は身近な保育所で情報が得られることから、とても喜ばれています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	保育所(園)の行事として予算範囲内で行い、効果的に実施しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	乳幼児にとっての食事は、生活の多くを占めており、食事に関する悩みや不安を感じている保護者が増加している現在、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市内の全域を網羅している保育所(園)を起点とすることにより、より充実した支援が送れるため、取り組みの推進を啓発していくのは、市が適当であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後とも、食事に関する悩み、不安解消に向け、地域の子育て家庭への積極的な支援を推進していきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	各保育所において、地域の子育て家庭へ給食のレシピ・食育だよりの配布や食に関する情報提供、食生活相談会、講演会などの支援を積極的に行います。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所入所児童への食育推進事業
-----	-----------------

【目的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所入所児童の食に関する興味や関心を高めるため、子どもたちに栽培活動や調理などを体験させ、また、給食を生きた食材として活用した食育指導の充実を図ります。		
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定		入所児童への体験を通じた食育指導の充実				
		これまでの進捗状況・今後の予定	実施保育所(園)の割合 100%	入所児童への体験を通じた食育指導の充実				
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標	
	入所児童に対する食育を実施している保育所(園)の割合		計画	100 %	100 %	年度	平成26年度	
	食育指導を実施している保育所(園)の割合の増加が、指導の充実と比例していると考えられるため、活動指標として掲げました。		実績	100 %	%	内容	100%	
			達成度	100 %	%			
			計画			年度		
			実績			内容		
		達成度	%	%				
コスト			事業費	千円	千円			
			うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。
実施保育所(園)の取り組みの事例発表や各保育所(園)における実施の有無のアンケート結果を周知することにより、100%の施設で実施しています。	

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	入所児童への食育指導の取り組みにより、子どもが食べることを喜ぶ様子は家庭での食育の関心を高めることになり、子育て支援が一層充実しています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	保育所(園)保育の一環として取り組むので、予算範囲内で工夫し、より効果的に実施しています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	家庭の養育力が低下していると言われている現在、子どもたちに体験を通じた食育指導は「保育内容および子育て支援の充実」向け、高い効果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	保育所入所児童を対象とするので、市が実施主体として適当です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後とも体験を通じた様々な食育の取り組みを充実させ、保育所入所児童の食に関する興味や関心を高めていきます。

【次年度計画】	
目的実現のために23年度に実施すること	各保育所において、栽培体験、調理体験など子どもが生活と遊びの中で、食にかかわる体験を積み重ねることを積極的に取り組んでいきます。
	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所給食を通じた家庭への食育の普及啓発
-----	----------------------

【事業的概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所入所児童の保護者に、食育について関心を持ってもらうため、給食の保護者試食会や、献立表・食育だよりの配布などを通して、家庭への食育の啓発を図ります。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定			入所児童の家庭への食育の啓発			
	これまでの進捗状況・今後の予定	実施保育所(園)の割合 100%		入所児童の家庭への食育の啓発				
【実施状況】	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）				平成22年度	平成23年度	目標	
	入所児童の保護者に対し、食育の啓発を実施している保育所(園)の割合		計画		100 %	100 %	年度	平成26年度
	保護者への啓発を実施している保育所(園)の割合の増加が、家庭への食育の啓発推進と比例していると考えられるため、活動指標として掲げました。		実績		100 %	%	内容	100%
			達成度		100 %	%	年度	
			計画				内容	
			実績				年度	
【コスト】			事業費		千円	千円		
			うち一般財源		千円	千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 実施保育所(園)の事例発表や各保育所(園)対象の実施の有無のアンケート結果を周知することにより、100%の施設で実施しています。

【事業の再検証】			
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	入所児童の保護者への食育の啓発により、子育て支援のみならず、家庭の養育力の向上、保育所との連携が一層強化されています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	各保育所(園)が予算範囲内で工夫し、より効果的に実施しています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	家庭の養育力が低下していると言われている現在、子育て支援の一環である食に関する支援は、保育所と家庭との連携において最も取り組みやすく、「子育て支援の充実」向け、高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	保育所の入所児童を対象としているので、市が実施主体として適当です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	試食会の開催や献立表・レシピ等の配布は、家庭での食育の実践が広がり、食を通じた子どもへの理解にもつながります。今後とも食の啓発を充実させていきます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	各保育所において、給食試食会や献立表・食育だよりの配布、展示物による啓発を積極的に行います。	前年度に評価した今後の方向性

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所給食におけるアレルギー対応
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	食物アレルギーを有する児童に対して、アレルギー対応給食を提供します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	保育サービス

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定		食物アレルギーを有する児童のアレルギー対応給食の提供				
		これまでの進捗状況・今後の予定	アレルギー対応給食提供割合 100%	食物アレルギーを有する児童のアレルギー対応給食の提供				
【実施状況】	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）		平成22年度	平成23年度	目標			
	アレルギー対応給食の提供割合		計画	100%	100%	年度	平成26年度	
	給食は子どもの健康や発育・発達にも影響があり、食物アレルギーを持つ児童にあわせた除去食や代替食の提供は子どもの育ちを支え、保護者の育児負担の軽減となることから、活動指標として掲げました。 アレルギー対応給食提供数/食物アレルギーを有する児童数		実績	100%		内容	100%	
			達成度	100%	%			
			計画			年度		
			実績			内容		
		達成度	%	%				
【コスト】			事業費	3,279 千円	23,874 千円			
			うち一般財源	千円	23,874 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
【実施結果】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 食物アレルギーを有する児童に対して、アレルギー原因食品の除去食や、代替食の対応を実施しています。

【事業の再検証】			
【評価】	<b>有効性</b> この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	アレルギー対応給食により、その子どもの健康や発育・発達を支え、保護者の子育て不安を解消するので、保護者から喜ばれています。
	<b>経済性・効率性</b> 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	調理室で給食を作りながら、代替食を作るので、経済的・効率的な運営を行っています。
	<b>適時性</b> 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	食物アレルギーを有する入所児童は10年前の2倍以上に増加している現在、子どもの安全面、情緒面、栄養量の確保の面等からも「子育て支援の充実」に向け、高い効果が期待できます。
	<b>市の関与の必要性</b> 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	保育所入所児童を対象とするので、市が実施主体として適当です。
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア：事業の見直しを図ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ウ	今後とも、アレルギー対応食の提供を積極的に推進します。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	各保育所において、アレルギー原因食品の除去や、代替食の対応を推進します。	前年度に評価した今後の方向性



# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 <b>22</b> 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続

担当局/課	子ども家庭局 保育課
連絡先	582-2412

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	保育所措置費用負担金の軽減
-----	---------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	保育所措置費用負担金(保育料)は、国の示す徴収金基準額に基づいて定めることを基本としています。本市では、保護者の負担を軽減するため、市独自の軽減措置に努めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 <b>保育サービス</b>

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由
		当初の予定	保育所入所児童世帯の保育料負担軽減の維持				
【実施状況】	これまでの進捗状況・今後の予定	計画どおり負担軽減の維持(保育料の金額改定なし)	保育所入所児童世帯の保育料負担の軽減の維持	(保育料改定予定)			
	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	保育料軽減率		計画	平成22年度 19.7 %	平成23年度 19.7 %	目標
【コスト】	保育料は、国がその世帯の所得税や市民税課税額の階層区分に応じて基準額を定めています。本市においては、市民の負担をできるだけ軽くするため、国の8階層の区分を14階層に細分化して、国の基準額から全体で約20%の軽減を図っています。	達成度		実績	平成22年度 18.5 %	平成23年度 %	年度
		達成度		計画	平成22年度 93.9 %	平成23年度 %	内容
		達成度		実績	平成22年度 %	平成23年度 %	年度
		達成度		計画	平成22年度 %	平成23年度 %	内容
【事業の実施結果・進捗状況の確認】	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	計画どおり保育料の負担軽減の維持に努め、保護者の負担を軽減しました。					
		【事業の再検証】					
【評価】	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があつたのか。	4	市独自の保育料軽減措置により、保護者の負担を軽減しています。				
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	2	保護者の負担を軽減する目的で行う事業であるため、市が負担するコストを削減した場合、軽減措置が維持できなくなり、保護者負担が増加してしまいます。				
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	保育料の軽減措置を維持することで、保護者の負担を抑えた保育料額を維持できます。				
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	国の示す徴収金基準額どおり保育料を定めた場合、保護者の家計へ与える影響が大きいと、市独自の軽減措置は必要と考えます。				
【今後の方向性】	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	今後も保育所入所児童世帯の保育料負担の軽減の維持に努めます。				
【次年度計画】		目的実現のために23年度に実施すること					前年度に評価した今後の方向性
		厳しい財政状況の中、保護者の負担を軽減するため、現行の軽減措置の維持に努めます。					